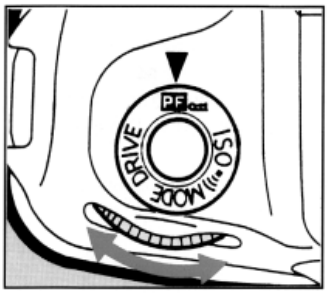
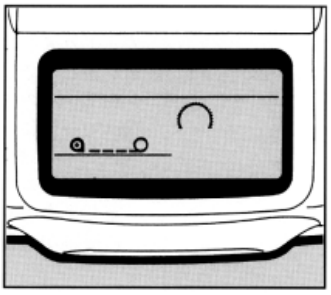
1



2



3

フィルムの途中巻き戻し

フィルムの規定枚数まで撮り終わらないうちに途中で取り出したいときに使います。

＊電源スイッチが ○ になっていると、途中巻き戻しの操作はできません。

1. モードダイヤルを PF に合わせます。
2. モードセットボタンを押したままTvダイレクトダイヤルを左に回して、図のように表示パネルの PF 表示を消し、モードセットボタンから指を離します。
3. Tvダイレクトダイヤルを左に3ステップほど回すと、巻き戻しを開始します。表示パネルの ◎ の点滅を確認してからフィルムを取り出してください。

＊途中巻き戻しが開始するまでは、モードセットボタンを押すことで、キャンセルできます。

＊巻き戻し終了後、モードダイヤルを回して、PF 以外に合わせてください。

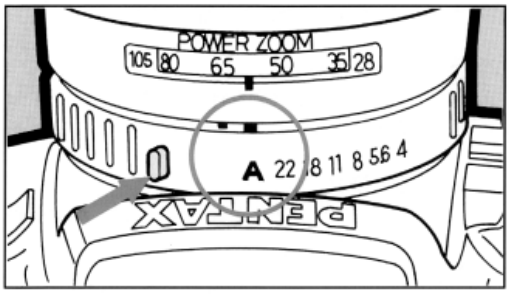
II 基本的な使い方（撮影）

(1)最も簡単な露出モードを使います

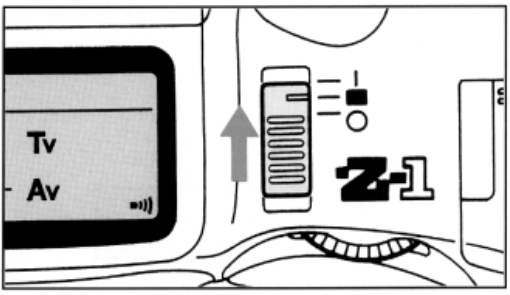
Z－1カメラには、高度な自動露出機能が付いていますが、ここでは、最も簡単に使える ■ （グリーンポジション）のプログラム自動露出を使用します。他の露出モードについては、応用的な使い方の露出モード（42ページ）をご覧ください。

＊プログラム自動露出は、カメラが自動的に露出を決定しますので、シャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

1



2



プログラム自動露出に設定します

1.図のように、レンズの絞りリングをA位置に合わせます。

＊レンズの絞りをA位置に合わせる場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。なお、A位置から外す場合にも、絞りオートロックボタンを押しながらリングを回してください。

2.電源スイッチを ■ に合わせます。

＊表示パネルに P が出て、プログラム自動露出に設定されます。

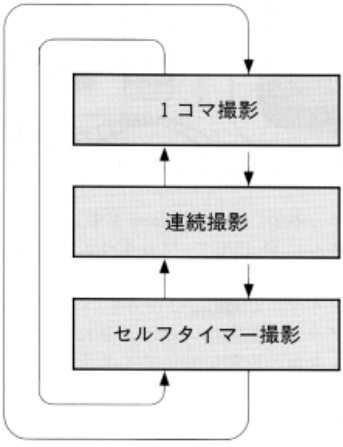
＊モードダイヤルが PF になっていると、表示パネルにプログラム自動露出の表示はされません。モードダイヤルを他の位置に変えてください。

＊レンズの絞りがA位置になっていない場合は、絞り優先自動露出に設定されますので、50ページをご覧ください。

＊電源スイッチが ■ では、露出補正（58ページ）が働きません。

(2)基本的なドライブモードについて

ここでは、電源スイッチが ■ になっているとして説明します。ドライブモードは次の3種類を選択できます。他のドライブモードを使用する場合は応用的な使い方のドライブモード（59ページ）をご覧ください。

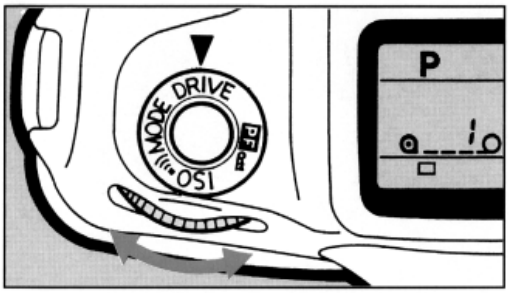


・ □ ＝1コマ撮影
シャッターボタンを押すごとに、1コマずつ撮影されます。最も一般的なドライブモードです。

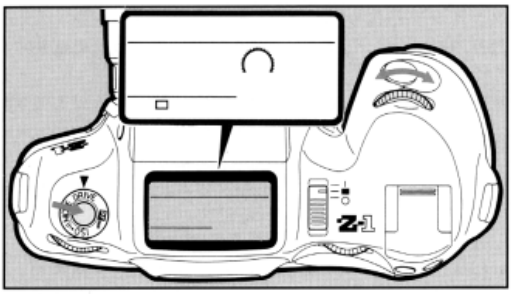
・ ⧉ ＝連続撮影
シャッターボタンを押し続けると、連続撮影になります。

・ ⏱ ＝セルフタイマー撮影
シャッターボタンを押してから、約12秒後にシャッターが切れます。
詳しくは、68ページをご覧ください。

1



2



ドライブモードの変更方法

1. モードダイヤルを DRIVE に合わせます。

2. モードセットボタンを押したまま、Tvダイレクトダイヤルを回すとドライブモードを変更できます。ここでは、一般的な1コマ撮影 □ に合わせておいてください。

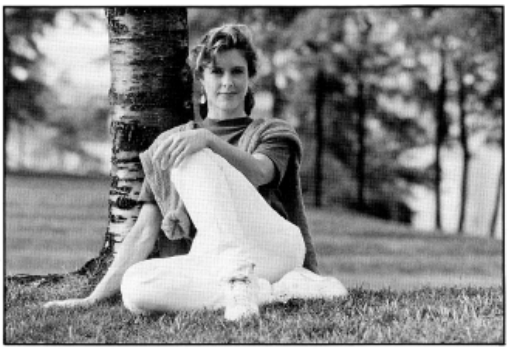
(3)ズームレンズの使い方

ファインダーを覗きながらズーミング操作をすると、ファインダー像が大きくなったり(テレ)、小さくなったり（ワイド）します。好みの位置に合わせて撮影してください。

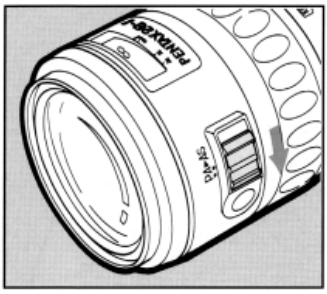
＊レンズの焦点距離表示の数字が小さいときは写る範囲が広い広角（ワイド）側、大きいときは遠いものを大きく写す望遠（テレ）側になります。

＊Ｚ－１にペンタックスＦＡズームレンズを組み合わせると、パワーズーム（電動ズーム）として使用できます。

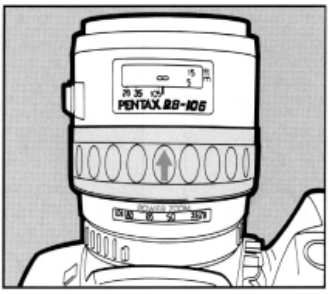
＊従来のペンタックスＦズームレンズなどを組み合わせる場合は、マニュアルズームとしてご使用ください。



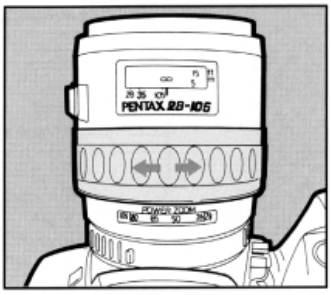
1



2



3



パワーズームで使用するには

＊ペンタックスＦＡズームレンズのみパワーズームとして使用できます。

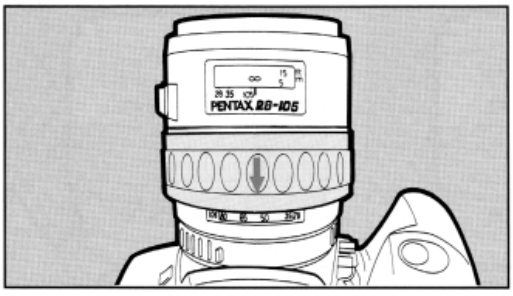
1. ＦＡズームレンズにはオートズームスイッチが付いています。このスイッチを P に合わせます。
2. ズームリングを前側に押し出すようにして、図のように POWER ZOOM が見える状態にします。

＊工場出荷時は、この状態になっています。

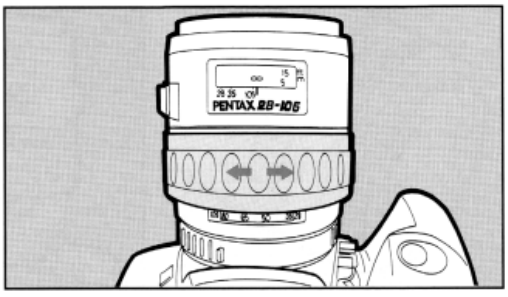
3. ズームリングを右に回すと望遠（テレ）側へ、左に回すと広角（ワイド）側に動き、手を離すと止まります。
   なお、ズームリングは、回転させる角度によって、ズーミング速度が３段階に変化します。ズームリングの回転角度を大きくする（当て付ける）と高速でズームが動き、小さくすると低速で動きます。その中間位置では、中速でズーミングできます。

＊ＦＡズームレンズ使用時に電源スイッチを切ると、自動的にレンズの長さが最短になります。この場合、距離リングの位置は∞に、焦点距離はレンズの長さが最短となる位置になります。（ＦＡズーム100～300mmや250～600mmを除く。）

1



2



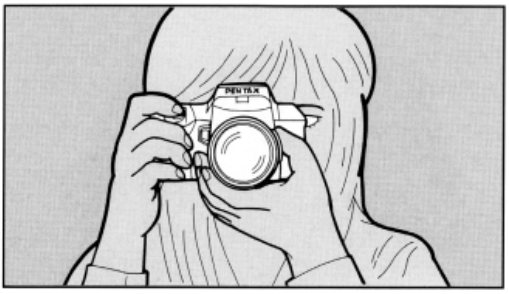
マニュアルズームで使用するには

＊ＦＡズームレンズは、ズームリングの切り替えで、マニュアルズームとしても使用できます。マニュアルズームに切り替えた場合は、従来のＦズームレンズと同様に使用できます。

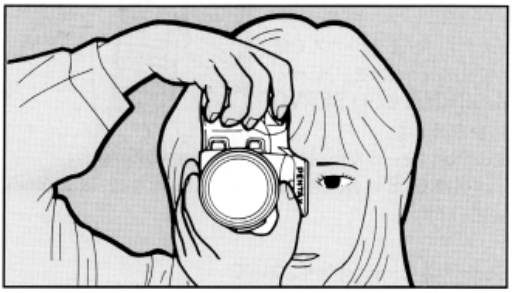
1. ズームリングを手前に引いて、POWER ZOOM が隠れるようにします。
2. ズームリングを右に回すと望遠（テレ）側へ、左に回すと広角（ワイド）側に焦点距離が変化しますので、好みの焦点距離に合わせてください。

(4)カメラの構え方

横位置



縦位置



撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

＊シャッターボタンは息を止めて指先で静かに押します。(強く押すとカメラぶれの原因になり、シャープな写真が撮れません。)

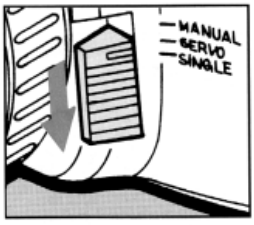
＊木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させることも良い方法です。

＊1/30以下の低速シャッターや超望遠レンズを使用するときは、なるべく三脚を使用してください。また、別売りの「ケーブルスイッチＦ」の利用をお勧めします。

＊特に望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

(5)オートフォーカスで使います

図のように、フォーカスモードレバーには３つのポジションがあります。オートフォーカスで使うには、フォーカスモードレバーをSINGLEまたはSERVOに合わせます。
ここでは、フォーカスモードレバーをSINGLEに合わせておいてください。



フォーカスモードレバーについて

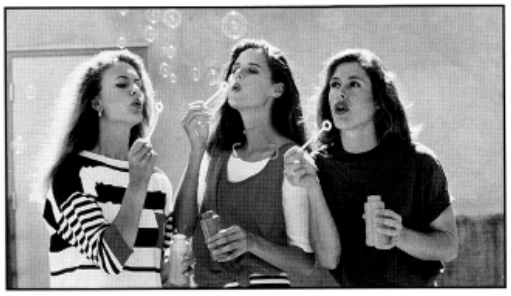
・SINGLE　＝シングル
シャッターボタンを押すとレンズが自動的に動いて、ピントが合うとシャッターが切れるようになる、最も一般的なオートフォーカスモードです。

・SERVO　＝サーボ
シャッターボタンを半押ししている間、被写体距離が変わっても、それに合わせてピントを追い続ける、オートフォーカスモードです。また、このモードでは動体予測機能も働きます。

・MANUAL ＝マニュアル
手動でピントを合わせるときに使用します。オートフォーカスの苦手な被写体などのときに合わせます。(40ページ参照)

(6)オートフォーカスでピントを合わせます

1

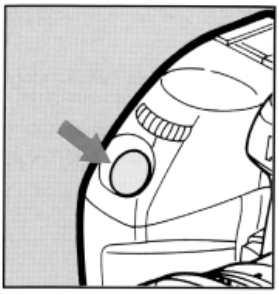


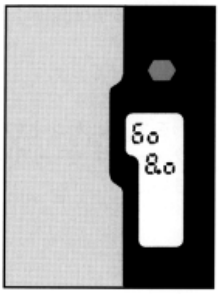
1. 写真のように、ＡＦフレーム( )を写したいものに合わせます。

＊モードダイヤルがPF ON/OFFになっていると、オートフォーカスは働きません。通常は、モードダイヤルを他の位置に合わせておいてください。

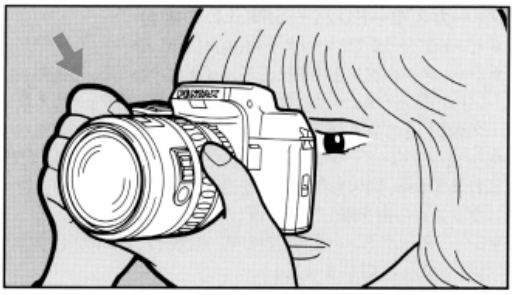
＊構図上、ＡＦフレーム( )がピントを合わせたいものから外れる場合は、「フォーカスロック撮影(32ページ)」をしてください。

2





3



2. シャッターボタンを半押ししてピントが合うと、図のようにファインダー内の ⬡ が緑色に光って、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
＊オートフォーカス作動中は、レンズの距離リングに手をかけたり回転を妨げたりしないでください。
＊ ⬡ が点滅を続けるときは、以下の理由でピント合わせができないときです。
❶撮影距離が近すぎる
❷オートフォーカスの苦手な被写体の場合(40ページ)
＊ ▪))) 設定で、電子音を消すことができます。(95ページ)

3. さらにシャッターボタンを押し切ると、撮影できます。
＊SMCペンタックスFソフト85mmF2.8レンズを使用するときは、絞りをF2.8～F4.5で撮影してください。(40ページもご覧ください)

AFシングル撮影:

フォーカスモードレバーSINGLEの場合

＊ピントが合うまでシャッターは、切れません。
＊シャッターボタンを半押しして、⬡ が光っている間は、ピントが固定(フォーカスロック)されています。「フォーカスロック撮影」をご覧ください。
＊一度ファインダー内の ⬡ が点灯すると、ピントが固定されますから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離して押し直してください。
＊シャッターボタンを素早く押し切った場合、ピントが合うまでシャッターは切れません。
＊動体予測ＡＦは、作動しません。

AFサーボ撮影:

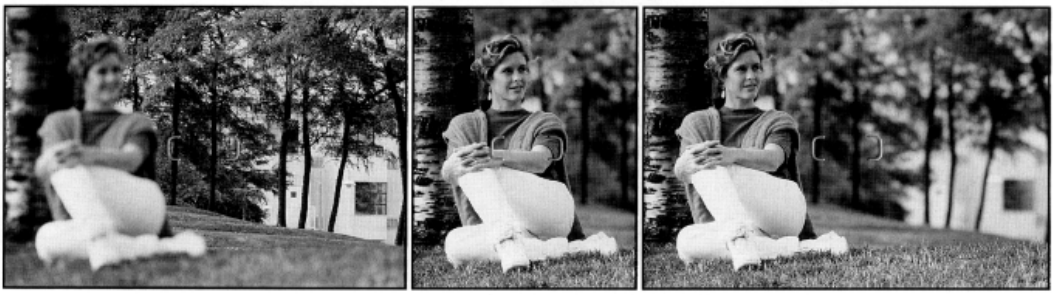
フォーカスモードレバーSERVOの場合

＊ピント合わせに関係なくシャッターを切ることができますが、シャッターボタンを半押ししている間、ＡＦフレームを合わせたものにピントを合わせ続けます。
＊ＡＦサーボ撮影では、動く被写体に対して動体予測ＡＦを行ないますので、動く被写体に対してピントの合ったシャープな写真を期待できます。
＊連続撮影 ▭ 時、1コマ目はピントが合わないことがあります。
＊フォーカスロック撮影はできません。

フォーカスロック撮影について

ピント合わせは画面中央のＡＦフレーム ( ) で行なわれます。
構図によって、ピントを合わせたいものが画面中央に来ないときは、フォーカスロック（ピント一時固定）撮影をするとピントの合ったきれいな写真が撮れます。
＊フォーカスモードレバーをSINGLEに合わせてください。

1　2　3



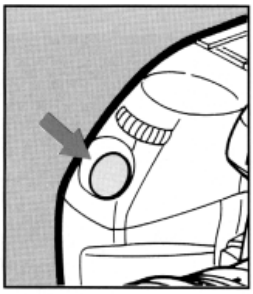
1. AFフレーム［ ］が外れたままで撮影すると、写真のように後ろにピントが合ってしまいます。
2. ピントを合わせたいものにAFフレーム［ ］を合わせて、シャッターボタンを半押し状態にして［○］を点灯させたままにしておきます。(ピントを記憶させる操作です。)
3. シャッターボタンを半押しのまま、元の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し切って撮影します。

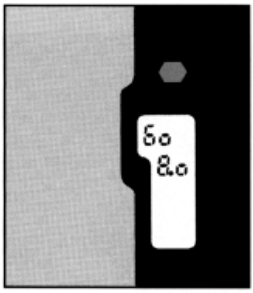
＊シャッターボタンから指を離して、ファインダー内の［○］が消えると、フォーカスロックは解除されます。

＊撮影距離を変えるときは、一度シャッターボタンから指を離して、フォーカスロックをやり直してください。

＊フォーカスロックは1コマ撮影すると解除されます。

(7)撮影します





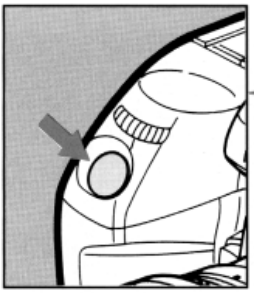
シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。さらにシャッターボタンを静かに押し切って、撮影します。シャッターを切ると、自動的にフィルムを巻き上げ、表示パネルの枚数表示が1コマずつ進みます。

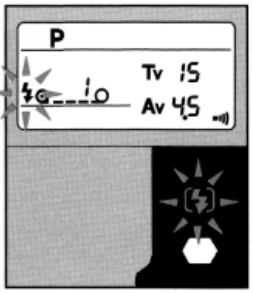
＊モードダイヤルが［PF］になっていると、シャッターが切れません。通常は、モードダイヤルを他の位置に合わせておいてください。

＊被写体が暗い場合や逆光の場合には、ファインダー内に［⚡］のストロボお勧め表示が点滅し、カメラがストロボの使用をお勧めします。(表示パネルにも［⚡］が点滅表示します。)

＊ストロボお勧め表示が出た場合には、内蔵ストロボを使って撮影しましょう。

(8)内蔵ストロボの基本的な使い方

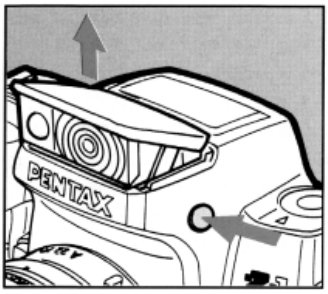




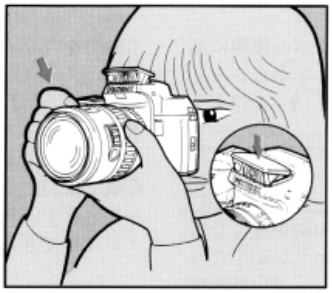
ストロボお勧め表示について

カメラの露出モードをハイパープログラム・プログラム・絞り優先自動露出で使用した場合には、ファインダー内［⚡］と表示パネル［⚡］の点滅(ストロボお勧め表示)がでることがあります。なお、逆光の場合には、シャッター優先自動露出・ハイパーマニュアルでもストロボお勧め表示がでることがあります。

1



2



(ISO 100のとき)

使用レンズの開放絞り値	撮影距離範囲
F1.4～2.8	約1～約5m
F3.5	約0.8～約4m
F4.7	約0.7～約3m
F5.6	約0.7～約2.5m

1.図のように、ストロボスイッチを押して、ストロボを上に飛び出させます。

＊充電が自動的に始まり、充電が終わると、表示パネルに ϟ が表示されます。シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にも [ϟ] が点灯表示されます。(充電時間は約3秒です)

2.シャッターボタンを半押しすると、表示パネルとファインダー内にストロボ同調速度と絞りが表示されます。
さらにシャッターボタンを押してストロボ撮影をします。撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押して収納してください。

プログラムＴＴＬオートストロボで撮影できる範囲の目安

ストロボ撮影できる距離は、上表のように、ご使用になるレンズの開放絞り値により変化しますのでご注意ください。開放絞り値は、レンズに「1：1.4」のように表示されています。(F1.4の場合)

＊露出モードがハイパープログラムおよびプログラム自動露出の場合、内蔵ストロボはプログラムＴＴＬオートストロボとして働きます。

＊プログラムＴＴＬオートストロボで撮影できる最短距離は、レンズの開放絞り値がF4.5より暗いレンズを使用しても約0.7mと一定になります。

ご使用上の注意

レンズが不適切な場合の警告表示

下記のF・FAレンズおよび、内蔵ストロボの使用に適さないF・FAレンズでは、充電が完了してからシャッターボタンを半押しすると表示パネルの ϟ やファインダー内の [ϟ] が点滅して警告します。

レンズの焦点距離が35mm未満の場合 マクロレンズの場合

警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円形のケラレが出たりしますのでご注意ください。FA・Fレンズ以外を使用した場合は警告表示がされませんから、特にご注意ください。

＊ PF 設定で、不適切レンズ使用時に内蔵ストロボの発光を禁止することができます。(89ページ)

＊ストロボの光路を遮ることがありますので、レンズフードは使わないでください。

＊35mmの焦点距離で撮影する場合、配光ムラが出ることがありますので、1m以上の距離で撮影してください。

＊FAズーム28～105mmレンズの場合、焦点距離が約40mm以下の広角側で内蔵ストロボを使用すると画面下部に半円形のケラレがでることがあります。

赤目現象について

一般に「赤目現象」といわれ、暗い中で人物のストロボ撮影を行なったときに、目が赤く写る現象です。これは、ストロボの光が目の網膜に反射するために起こる現象と言われています。赤目を完全に防ぐことはできませんが、できるだけ周りを明るくして撮影するか、ズームレンズを使用している場合には広角側にして近距離で撮影するなどの方法を利用すると軽減することができます。外付けのストロボをご使用のときは、ストロボをできるだけカメラから離すと効果があります。